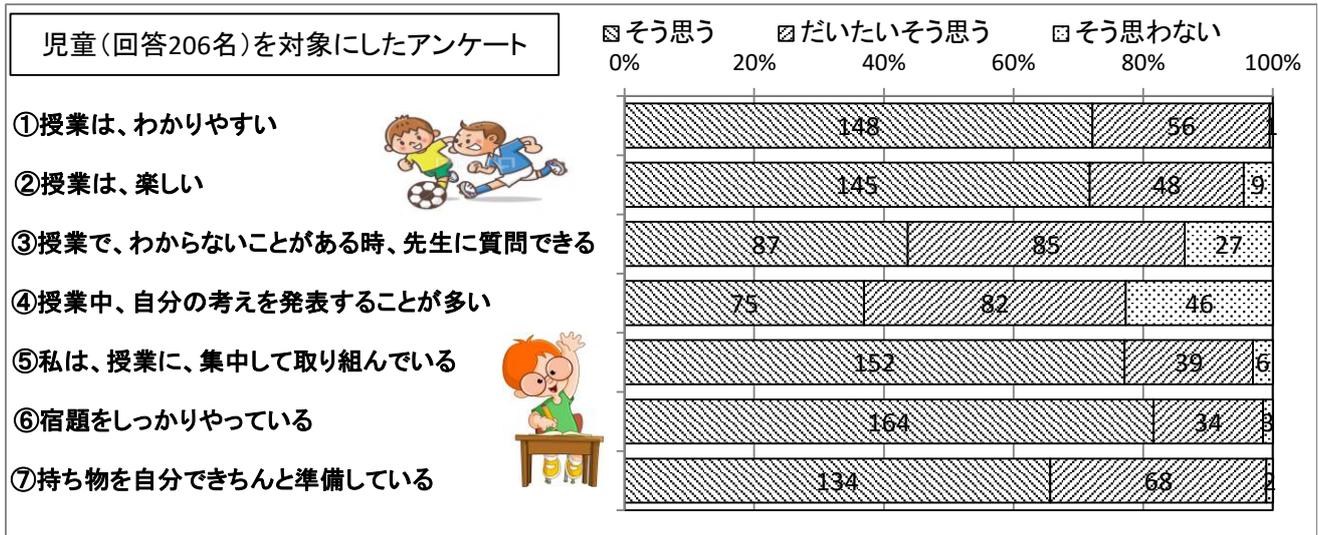


令和3年度 「児童授業評価アンケート」の集計結果について

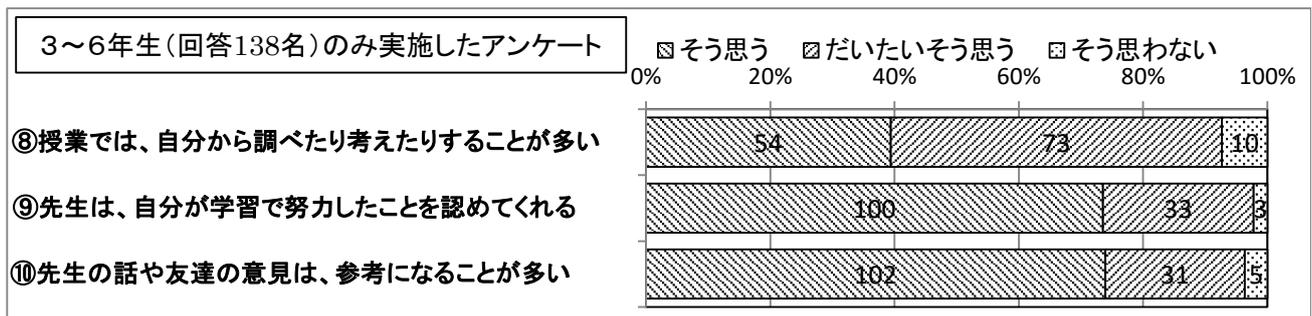
児童を対象に実施した授業評価アンケートの集計の結果は、以下のとおりです。この回答結果にもとづき、教育活動の見直しと一層の充実を図っていく所存です。



《①～⑦の質問に対する考察》

児童が、意欲的に学習に取り組んでいることが分かります。7項目中5項目で、90%以上の肯定的な回答が得られました。今年度から児童1人に1台のタブレット端末が配置され、ICT機器の良さを生かした、児童が「楽しい」と思える授業となるように努めていることも、大きな要因の1つです。さらに、学習サポーターやティーム・ティーチング、特別支援教育支援員など、複数の職員が教室にいる体制をとり、児童個々に寄り添った学習を目指した成果が反映されたと考えています。

③④の項目は、肯定的な回答率が90%に届きませんでした。コロナ禍の現在、県や市の感染症対策ガイドラインに基づき、グループ活動や友達との交流は制限し、ドリルやプリント、タブレット端末で習熟を図るような、個々の学びが中心の学習体制となってしまったことが、「自分の考えを発表する」ことに結び付きにくくなってしまったと考えます。感染状況に応じて、今後、交流活動の中で、児



《⑧～⑩の質問に対する考察》

⑧⑨で、肯定の回答率が昨年度を上回りました。努力したことが認められることで、児童は自信と向上心をもって学習に臨みます。この結果を励みに、児童個々の状況に応じた適切な評価や称賛を通して、児童の学習意欲がさらに向上するよう努めてまいります。

《重点課題》

昨年度から新しい学習指導要領が全面実施となりました。この学習指導要領がめざす「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、学習したことを生かして課題を解決しようとする姿勢や、様々な角度から物事をとらえて考えを深めたり、視野を広げようとする態度を育てるための、授業改善を図っているところです。今までに引き続き、基礎・基本の定着から「わかる・できる」が実感できる授業づくり、教材や指導体制を工夫し、個に応じた支援体制を整え、成就感がもてる学習指導を進めます。

また、児童に1台ずつ配置されたタブレット端末を、授業では全学年で活用しています。授業での効果的な活用や、家庭での活用について、検討していきます。

